

* 彗星搜索鏡が設置されていたドームは卯酉儀ドームか？

昭和26年に東京天文台職員組合が発行した「見学の栞」に出ていた彗星搜索鏡の図を発見したことから話がどんどんにぎやかになった。まず、筆者をはじめ、周りの人たちにこの彗星搜索鏡という望遠鏡を見たことはもちろん、写真さえ見たことのある人はいなかった。そこでまず写真を探索していたら、天文月報の1928年(昭和3年)1月号に載っていると教えてくれる人が現れた。そしてインターネットで調べていたら東北大学図書室のリポジトリに東京天文台絵葉書4集の中の写真として掲載されていた。この彗星搜索鏡のことを知っている人物は現役の国立天文台職員にはいない。アーカイブ室新聞133号にこの写真から、元天体掃索部にいた佐藤英男氏は自分が観測していた30cm望遠鏡ドームに違いないといい、筆者は自分が観測に使っていた卯酉儀室と呼ばれたドームと思われるという記事を書いた。実は東京天文台にはドームというものはそうたくさんはなかった。1)26吋赤道儀望遠鏡ドーム、2)第1赤道儀(8吋望遠鏡)ドーム、3)ブラッシャー望遠鏡ドーム、4)30cm望遠鏡ドーム、5)卯酉儀ドーム、6)塔望遠鏡ドームの6個のドームしかなかった。そして現在は1)、2)、4)、6)の4つが残っている。1)の大赤道儀ドームは大きさから、2)の第1赤道儀ドームにある20cm赤道儀望遠鏡は、1927年に彗星搜索鏡と同時に購入され設置された望遠鏡だからこの2つのドームは除外される。3)のブラッシャードームはロータリーのある道路の南端にあったドームでブラッシャー望遠鏡以外がおかれたことはないといわれている。このドームはすでにない。4)の30cm望遠鏡ドームはこう呼ばれるようになったのは、佐藤英男氏がこのドームにあった架台に掩蔽観測用の30cm反射望遠鏡の1台を据えて変光星観測を始めたからである。それ以前いろいろ経緯があったからこのドームに彗星搜索鏡があったかもしれなかった。5)の卯酉儀ドームはすばる解析研究棟玄関前辺りの道路の真ん中にあった。そして筆者はこの中に設置されていた30cm反射望遠鏡で変光星の観測を7~8年間晴れてさえいけば盆、正月もなく観測していた。このドームは卯酉儀ドームと呼ばれていたが、卯酉儀なる望遠鏡を見たことのある人を知らないし、卯酉儀という望遠鏡があった記録もない。ただ、卯酉儀は子午儀を90度回転させて設置すれば卯酉儀として観測に使えるから、卯酉儀という望遠鏡がなくても不思議ではない。このドームはすばる開発実験棟建設時に取り壊されてしまった。6)の塔望遠鏡のドームに彗星搜索鏡が置かれたはずはない。ということは、彗星搜索鏡が置かれたドームの候補は4)の現在30cm望遠鏡ドームと呼ばれるドームと、5)の卯酉儀ドームの2つしかない。このことについて香西氏から、30cm望遠鏡ドームは、香西氏が東京天文台に就職後建設されたという情報を寄せてくれた。ということは彗星搜索鏡があったドームは卯酉儀ドームということになる。他に傍証はないか調査をしていたところ、天文月報昭和7年1月号の表紙にその頃の東京

天文台全体の航空写真が掲載されていた（写真1）。また、この写真の元の写真と思われる写真2を発見した。そして1948年3月29日の米軍による航空写真もある（写真3）。この両方に現在の30cm望遠鏡ドームは写っていない。これは香西氏の言葉を裏付けている。この2点の航空写真は火災による消失前の本館が写っているなど興味深いが、この写真については項を改める。



写真1 天文月報1932年1月号表紙の東京天文台の航空写真

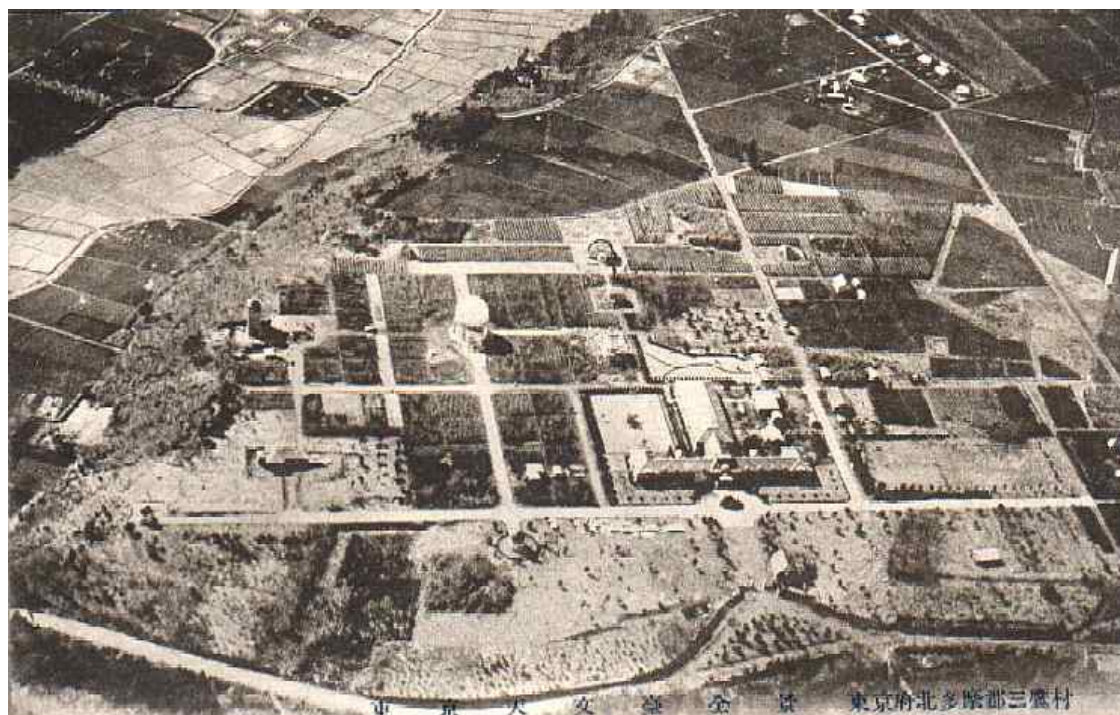


写真2 天文月報1932年1月号の表紙の写真の元になった写真



写真2 1948年3月29日米軍による航空写真

30cm 望遠鏡ドーム、卯酉儀ドームといってもご存じない方も多いただろうから、紹介しよう。30cm 望遠鏡ドームは現存する（写真4）ので中を検分することもできる。現在は東京大学理学部天文学教育研究センター敷地内にある。



写真4 佐藤英男氏が使っていた30cm 望遠鏡ドーム

卯酉儀ドーム（写真5）は、前述したように筆者が長く観測に使っていたドームで、東京

天文台で一番小さいドームであった。そしてその中には大沢清輝先生によって、掩蔽観測用に製作された日本光学製の 30cm 反射望遠鏡（写真 6）が設置されていた。



写真 5 卯酉儀ドーム



写真 6 卯酉儀と呼ばれた 30cm 望遠鏡

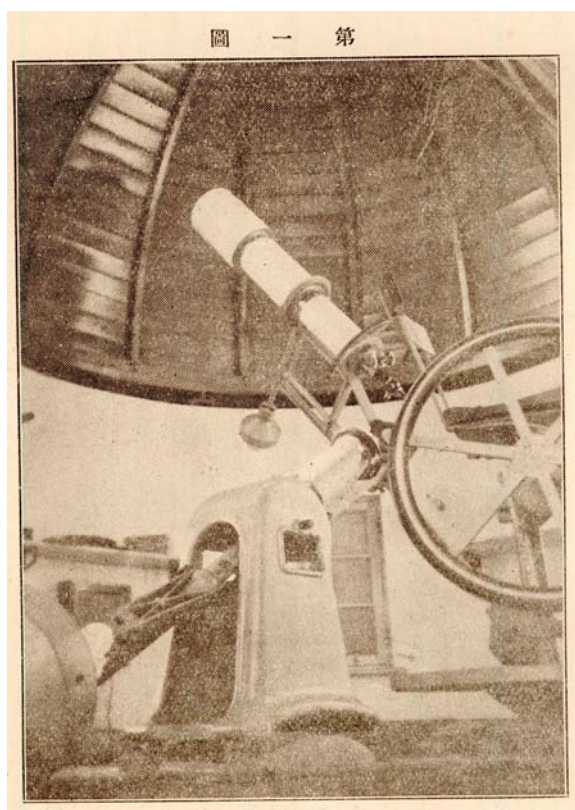


写真 7 天文月報 1928 年 1 月号の写真

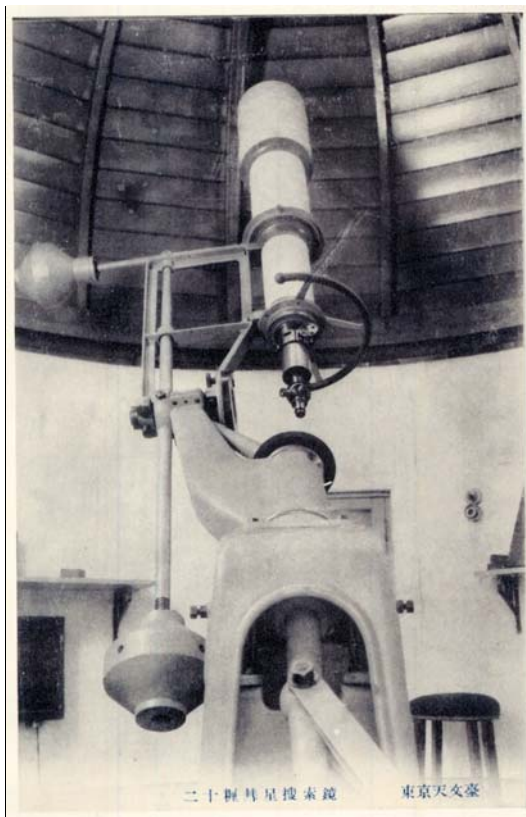


写真 8 東北大図書館のリポジトリーの写真

写真7、8は1927年頃の写真であるから、30cm望遠鏡ドームと呼ばれているものは存在しなかったのだから、彗星搜索鏡が設置されたドームは卯酉儀ドームということになる。このドームで寒さに震えながら独楽鼠のように走り回りながら観測した筆者にとって、この彗星搜索鏡は、接眼レンズ部が不動点にあつて殆ど動かないで観測できたとは感慨深いものがある。

なお、更に述べると東京天文台の南側の野川沿いは水田が広がる光景であつたことが分かり、これも年月の経過を示している。